

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

知・徳・体の調和のとれた人間育成を柱とした教育活動を展開し、「入りたい」「入ってよかった」と言われる「元気で活気のある伝統校」をめざす。また、学校から家庭・地域への情報発信や連携による開かれた学校運営を展開し、地域の教育・文化の中心的な役割を果たす学校をめざす。

1. 自らが抱いた「高い志」や「将来の夢」の実現に向け学力向上をめざすとともに幅広い教養を身につけた生徒を育成する。
2. キャリア教育をいっそう推進し、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、これからの社会に貢献する多様な人材を育成する。
3. 地域や他の教育機関との連携を密にし、本校が社会に輩出してきた人的資源や地域の社会資源を活用した教育活動を展開する。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、特色ある教育課程の実施。

- ア ビジネス情報コースの授業内容および資格取得への取り組みを充実させ、進路実現に活かせるコースとして発展させる。
- イ 平成 25 年度から導入した教育課程について検証し、生徒の進路実現につながる選択科目の開発と充実に取り組む。

(2) 学習意欲の向上と授業力向上の取り組み

- ア 進路指導部と教務部の連携を密にし、放課後や休業中を活用した応用力育成講習や基礎力定着補習を実施し、学力の向上を図る。
  - イ 授業力向上支援チームを組織し、授業公開や教員相互の授業見学、生徒の授業評価アンケートを活用し、全校的な授業力向上に取り組む。
- また、習熟度別授業、少人数授業のあり方についても検討する。
- \*生徒の授業評価アンケートにおける授業満足度（平成 24 年度 62%）を平成 27 年度には 80%にする。

## 2 自主性および規律ある生徒の育成

(1) 自治会（生徒会）活動や部活動の活性化を通して自主性を育てる。

- ア 学校行事の活性化に向け生徒の自主的な取り組みを進める。
  - イ 体験入部期間を設けるなど部活動を身近なものとして捉える工夫をする。また、地元中学校との交流を進める。
- \*現在約 40%の部活動加入率を平成 27 年度には 55%にする。

(2) 規範意識醸成のため、全教職員による生徒指導体制の確立

- ア 遅刻撲滅に向けた取組体制を全教員の共通理解のもと再構築するとともに、家庭との連携協力体制を確立する。
- \*生徒の年間遅刻総数（平成 24 年度 6139）を毎年 6 ポイントずつ減少させ、平成 27 年度には総数 5000 以下にする。
- イ 制服指導や交通マナーなどの向上に向けた講演会や講習会を計画する。

(3) 教育相談体制の充実

- ア 生徒情報の共有化を進め、全教員がカウンセリングマインドを持って生徒の指導にあたる体制を構築する。
- \*生徒向け学校教育自己診断における「先生は相談にのってくれる」の肯定的な答えを平成 27 年度には 70%にする。
- イ 支援教育コーディネーターを指名し、個別支援に向けた取り組みを進める。

## 3 「志」や「夢」の実現に向けた指導計画の確立

(1) 「総合的な学習の時間」と LHR を活用した総合教育の実施

- ア 入学から卒業までの 3 年間を通じた志学、キャリア教育と人権教育を連動させた生徒育成プログラムを構築する。

(2) 個別の進路希望に応じた指導体制の取り組み

- ア 個人指導カードの作成、活用とパート別指導の実施。
  - イ 個々の進路希望に応じた情報提供を適切かつ迅速に行うとともに、進路実現に向けた取り組みを実践し、成果を上げる。
- \*難関私立大学への合格者（平成 24 年度 4 名）を平成 27 年度に 10 名以上にする。

## 4 地域への発信および広報活動の充実

- ア 中学校、保護者、教育関係者を中心に積極的な情報発信および広報活動を行うことで学校理解を図り、地域に根ざした学校づくりを行う。
- イ 生徒参加による学校説明会や中学校訪問等を企画実施し、本校の教育活動のいっそうの理解を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【生徒の学校教育自己診断項目（抜粋）】</b>            学校に行くのが楽しい 75%            学校は進路について情報を知らせてくれる 69%            平日の家庭学習時間が 1 時間以上 20%            （課題）進路実現に向け効果的な情報提供及び家庭学習時間の増加            ⇒進路指導室移設や家庭学習課題の積極的な提供など様々なしかけを実施</p> <p><b>【保護者の学校教育自己診断項目（抜粋）】</b>            学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている 80%            保護者の相談に適切に対応 81%            学校は将来の進路や職業などについて適切な指導 80%            先生は子供を理解している 68%            （課題）生徒としっかり向き合った指導の推進            ⇒生徒を中心に据えた学校づくりに向け、教員意識の統一</p> <p><b>【教職員の学校教育自己診断項目（抜粋）】</b>            個々の生徒の興味・関心、適正に応じた進路指導の実践 88%</p>	<p><b>【第 1 回 (6/12)】</b>            ① 進学実績が上がってきていることから中学生に具体的な進路先を示すなど、進学意欲の高い生徒の入学促進の取組みに期待する。            ② 多岐にわたる生徒ニーズにきめ細かく対応し、実現しうる進路指導に期待する。            ③ 国立大・難関私立大への進学実績のさらなる向上に期待する。</p> <p><b>【第 2 回 (11/7)】</b>            ① 今年度の薬物乱用（危険ドラッグ）の取組みは大いに評価。今後、継続した取組みに期待する。            ② 生徒の多岐にわたる進路ニーズに対してきめ細かく対応し、着実に実績を上げつつある。今後は 1 年時からの進路実現に向けた「しかけ」のさらなる充実に期待する。            ③ 泉大津高校のアドミッションポリシー（学校特色や教育理念等に基づき、どのような入学者を求めるかなど）を明確にするとともに、学校広報 DVD に載せるなどの工夫を行い、目的意識を持った志願者募集の取組みに期待する。</p> <p><b>【第 3 回 (2/6)】</b>            ① 全体的に学校の取組みの成果が出てきている。生徒の授業満足度については 80%</p>

<p>生徒指導体制の組織的対応ができる。92%                  教育相談体制の整備が出来ている。89%                  他の学校にない特色がある。50%                  ⇒「生徒指導と進路指導を両輪とし、可能性を追求した進路実現」をミッションに掲げ、全教員の理解のもと実践する。</p>	<p>をめざしてほしい。                  ② 校内外においての生徒のマナーがよくなってきている。今後も学校のさらなる指導を継続し、成果を上げ、そのことを泉大津高校の「強み」としてほしい。                  ③ 進路実現をさらに充実させるしかけの一つとして、卒業生による体験講話などを実施し、生徒のモチベーションアップを図ってはどうか。                  ④ 「資格・マナー・基礎学力をつける」をコンセプトにアドミッションポリシーを打ち出してはどうか。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ( ➡「来年度に向けて」)
1 確かな学力の育成	(1) 特色ある教育課程の実施 ア ビジネス情報コースの授業内容の充実	(1) ア・ビジネス情報コースの授業において資格取得に向けた取組みを充実させ、できるだけ多くの資格取得者を出す。	(1) ア・新コースのビジネス情報コースの生徒の授業満足度65%以上。 資格取得者60%以上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス情報コース授業満足度 78% .....(◎)</li> <li>・資格取得者 のべ36名/27名 130% 簿記実務検定、情報処理検定 ビジネス文書検定 (1,2,3級) .....(◎)</li> </ul> ➡成果を周知し、コース希望者増を図る。
	イ 平成25年度導入の教育課程の総括と取組み	イ・平成25年度導入の教育課程について総括し、次年度における指導に生かす。 ①1年次において進路選択を視野に入れた科目選択ができていないか。 ②1年次履修31単位(+1単位)について総括し、次年度に生かす。	イ・学校教育自己診断の「教育課程は、進路や興味に合った科目が選べる」の答えを全学年で60%以上をめざす。 (H25 55%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断の「教育課程は、進路や興味に合った科目が選べる」 H25 55% → H26 65%.....(○)</li> </ul>
	(2) 学習意欲の向上と授業力向上の取り組み ア 確かな学力を身につけるとともに自己の可能性を知り、学力伸長を追求する生徒の育成	(2) ア・英語・数学で習熟度別少人数展開授業を実施し、基礎・基本の学力の定着をめざす。 ・年2回教育産業学力診断を実施し、生徒対象のデータ分析会や面談を通して自己の成績状況と伸長の可能性を認識させ学習意欲の向上を図る。 ・教員対象のデータ分析会も実施し、サポート体制の充実を図る。  ・1年次から進路実現に向けた講習等を進路指導部と学年と各教科が連携して企画し、放課後や休業中に実施する。	(2) ア・生徒、教員対象のデータ分析会の肯定的意見 65%以上をめざす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育産業学力診断分析会 肯定的意見 生徒対象・・・43% 教員対象・・・59%.....(△)</li> <li>➡進路実現に向けての有効ツールとなるよう分析会の充実を図る。</li> <li>・学校教育自己診断 「講習参加生徒の満足度」65%.....(○)</li> <li>➡進路指導部主導で講習ニーズの把握と内容充実を図る。</li> </ul>
イ 授業力向上への取り組み	イ・全校的な授業力向上に取り組むため、昨年度組織した授業力向上支援チームが中心となり、授業アンケート結果なども参考にし、教員全体の授業力向上への取組みを推進する。  ・授業力向上に向上に向けた個々の取組みとして教員相互の授業見学を行う。 ・昨年度実施のパッケージ研修で作り上げた「泉大津高校のめざす授業」のモデル研究授業を授業力向上支援チームで企画する。	イ・授業アンケート共通項目「興味・関心、知識・技能」の学校平均を昨年度より上回る。 ・生徒の授業満足度を80%まで上げる。(H25 72%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート共通項目の数値 (H25) (H26)</li> <li>・「興味・関心」2.85 → 2.85</li> <li>・「知識・技能」2.89 → 2.89.....(△)</li> <li>・生徒の授業満足度 H25 72%→H26 72% (目標80%) .....(△)</li> <li>➡自校版パッケージ研修の継続と評価育成新システムの活用。</li> <li>・授業見学 100%実施</li> <li>・1回目 9/14 実施 2回目 11/13 実施 研究授業振り返り研修 12/4 実施 研修満足度 82%.....(◎)</li> </ul>	

<p>2 自主性および規律ある生徒の育成</p>	<p>(1) 自治会活動、部活動の活性化 ア 自治会活動の活性化と自主性育成  イ・部活動の活性化 ・部活による中高連携の充実</p> <p>(2) 規範意識醸成のための生徒指導体制 ア 遅刻撲滅に向けた取り組み  イ マナー指導の徹底  ウ 集団行動の徹底</p> <p>(3) 教育相談体制の充実 ア 生徒情報の共有化とカウンセリングマインドの確立</p>	<p>(1) ア・体育祭、文化祭の運営を自治会生徒が主体的にできるように教員がサポートし、自主性を育む。 ・自治会を中心に「あいさつ運動」を継続して展開し、「あいさつのできる学校」をめざす。  イ・入部紹介プリント作成に工夫を凝らし、部活動加入率を上げる。 ・活動を通して近隣中学校との合同練習や試合を企画し、中学校との交流を活発化する。</p> <p>(2) ア・全教職員が同じ基準で生徒指導にあたる体制を構築するとともに、日々の継続的な生徒指導体制を構築することにより、校内における問題行動の防止を図る。年間懲戒者数を減少させる。 ・昨年度から実施している遅刻指導システムを定着させ、さらなる遅刻者数の減少を図る。  イ 自転車通学者のマナー指導を警察と連携して行う。  ウ 始・終業式、避難訓練、学年集会などで集合時間の短縮や「話を聞く」態度を徹底することを通して集団における個々の責任や役割を自覚させるとともに社会において集団で行動できるよう育成する。</p> <p>(3) ア・教育相談研修やケース会議を実施し、知識の向上と情報の共有を図り、生徒支援を充実させる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断 自治会活動 肯定意見 60%以上 (H25 48%) ・新規項目「あいさつ運動」学校教育自己診断での肯定率 50%以上  イ・1年生の部活動加入率を50%に上げる。(H25 45%) (各クラス H25 加入者平均+2名 をめざす。) ・地元中学校との連携について、種目、回数を増やす。  (2) ア・昼休み巡回指導を1年間継続。 ・年間懲戒件数の減少。 ・遅刻総数を前年度比10%以上減少をめざす。  イ 警察と連携し、学期に1回ずつ通学路指導週間を実施する。  ウ 集合時間の短縮 (避難訓練3分短縮) 「聞く態度」の徹底</p> <p>(3) ア・生徒向け学校教育自己診断「担任以外に気軽に相談に乗ってくれる先生がいる。」の肯定的な答え 60% (H25 36%)</p>	<p>・学校教育自己診断 生徒会活動 肯定意見 H25 48% →H26 40% .....(△) ・学校教育自己診断「あいさつ運動」肯定意見 68%.....(◎) ➡ コミュニケーション力UPを掲げ運動を拡大させスキル向上を図る。 ・部活動加入率 H25 45% → H26 42%.....(△) ➡ 入学時から部活動推奨の新たな工夫が必要。 ・運動部で中学との連携が増えた。(新たな取組みクラブ：水泳、剣道、バドミントン) (取組み実施回数7クラブ12回) .....(○) ・昼休み巡回年間継続.....(○) ➡ 巡回教員が特定されてきたことから巡回教員増をめざし、生徒への支援体制の充実を図る。 ・12月末時点 懲戒件数が 64% 減少.....(◎) ・遅刻総数昨年度比較 (12月末時点) H25 3336 → H26 3007 10%減 .....(○) ・正しい制服の着用が定着。 ・通学路指導週間実施。登下校での重大事案なし.....(○) ・校内自転車置場における各クラス指定場所への正確な駐輪習慣の定着.....(○) ・始業式・終業式などの集会時の集合時間は短縮し、聴く態度は定着してきている.....(○) ・避難訓練での避難行動は迅速であったが整列・点呼に手間取り2分短縮に止まった.....(△) ➡ 避難訓練では事前指導の充実を図り、生徒の意識徹底を行う。 ・生徒向け学校教育自己診断「担任以外に気軽に相談に乗ってくれる先生がいる。」肯定的意見 39% .....(△) ➡ 教育相談委員会を軸に「生徒と向き合う」テーマで年間計画研修を企画実施。</p>
------------------------------	--	---	---	--

府立泉大津高等学校

<p>3 「志」や「夢」の実現に向けた指導計画の確立</p>	<p>(1) 総合教育の実施 ア 3年間の生徒育成プログラム</p> <p>イ 人権教育の推進</p> <p>(2) 個々の進路に応じた情報提供 ア 就職に関する指導</p> <p>イ 進学に関する指導</p> <p>ウ 「高校生活支援カード」の活用</p>	<p>(1) ア・昨年度実施の「総合的な学習の時間」とLHR等を活用したプログラムを進路指導部が中心となって総括し、進路講演会や分野別進路体験、職業体験、大学見学会などさらに充実した内容に発展させる。</p> <p>・各年次の目標に準拠したキャリアプランの作成と生徒ニーズに合った有効な進路情報を提供する。 (1年次) 自己発見から進路目標の獲得。 (2年次) 進路目標達成に向けた取組みの実践。 (3年次) 進路実現および自己実現の達成。</p> <p>・人権教育推進委員会で人権教育に関わる各学年の取組みを総括し、学校行事やクラスHRなどにおける3年間のトータルな人権教育プランを作成し、充実を図る。</p> <p>(2) ア・個人進路指導カードを活用し、きめ細かな進路指導を実施し、モチベーションの高揚と進路目標の獲得を図り、実践につなげる。</p> <p>・就職主坦を中心に就職希望者に指導や支援を行い、一次合格決定率上昇と就職内定率100%を維持する。</p> <p>イ・進路指導部主導で進学実現に向けた取組みの充実により自身の可能性実現の夢を抱かせ、挑戦する姿勢を育成し、チャレンジさせて合格する生徒を育てる。</p> <p>・年度当初に進路指導に関する研修会を実施し、教員の知識およびスキル向上を図る。</p> <p>ウ 「高校生活支援カード」について特別支援委員会と教育相談委員会とが連携し、適切な対応を行う。</p>	<p>(1) ア・各学年で進路実現に向けた取組みの実施と実施後アンケートの取組み満足度60%をめざす。</p> <p>・学校教育自己診断の「進路情報の提供」の肯定的な答えを80%に引き上げる。 (H25 75%)</p> <p>・キャリアプランは年度当初には作成し、実践に入る。</p> <p>・人権教育プランは1学期中に作成し、実践に入る。</p> <p>・生徒の学校教育自己診断における各学年の人権教育についての肯定的な答えを55%以上に引き上げる。 (H25・1年75% 2年42% 3年52%)</p> <p>(2) ア・1,2年次での進路目標保有率の上昇。</p> <p>・就職内定率を前年度同様の100%を維持する。</p> <p>イ・国公立大学、および難関私立大学、看護医療系学校への受験者と合格者を昨年度より増加させる。 (国公立、難関私立大学は計15名以上をめざす)</p> <p>・教員向け進路指導研修を年度当初に実施。</p> <p>ウ 学校教育自己診断で「特別支援委員会の円滑で効果的な運用」について教員による肯定率60%以上。</p>	<p>・1年大学見学会(8月)満足度91% 1年進路分野別説明会(7月)〃94% 2年進路別バス見学会(5月)〃86% 2年総合講習(国・数・英)〃89% .....(◎)</p> <p>・学校教育自己診断の「進路情報の提供」肯定意見H25 75% → H26 69% .....(△)</p> <p>・キャリアプラン5月作成後、実践に入る.....(○) ▶今年度総括後、ブラッシュアップして来年度版を作成。</p> <p>・人権プラン作成 1年・人権意識の啓発と実態把握 2年・SNSのリテラシーと人権について 3年・進学・就職に際しての人権意識の向上.....(○)</p> <p>・学校教育自己診断 生徒向け「各学年の人権教育についての肯定意見」 &lt;1年&gt; H26 68% &lt;2年&gt;〃 75% →〃 78% &lt;3年&gt;〃 42% →〃 65% .....(◎)</p> <p>▶各学年のHR・学校全体の人権行事の継続した取組み ・学校全体としての系統立てた人権教育計画を推進する。</p> <p>ア・1,2年進路目標保有率 &lt;1年&gt;H26 4月59%→H26 9月72% &lt;2年&gt;H25 9月99%→H26 9月99.7% .....(○)</p> <p>・就職内定率(12月末) H25 93% → H26 97%.....(○)</p> <p>イ・国公立大学合格者 H25 2名→H26 0名 難関私立大学合格者(2月末) H25 13名 →H26 15名.....(○)</p> <p>・センター試験出願者数の増加</p> <p>・外部講師による泉大津高校進学戦略研修を実施.....(○)</p> <p>・学校教育自己診断で「教育支援委員会の円滑で効果的な運用」 教員肯定率 74%.....(○)</p>
<p>4 地域への発信および広報活動の充実</p>	<p>中学校、保護者、教育関係者を中心に積極的な情報発信と広報活動の充実</p>	<p>・今年度より設置する広報委員会による計画的かつ有効な広報活動の展開。 ① HPのバージョンアップと迅速な更新作業 ② 学校説明会の企画、準備、実施 ③ 生徒による広報活動の実施 ④ 中学校訪問における教員体制の整備 ⑤ 学校パンフレットの作成 ⑥ 新しい取組みの企画、実施</p> <p>・泉大津市近隣中高連絡協議会(H25 立ち上げ)の会長校として中学との連携を深める取組みを企画・推進し、府立高校理解と進学意欲を高める。</p>	<p>・平成27年度入学者選抜における志願者数を増加させる。</p> <p>・中高における生徒および教員間の取組み(中学への出前授業、教員交流研修、部活交流など)を実施する。</p>	<p>・情報発信および広報活動の実績 新学校パンフの作成 学校HP刷新、学校紹介DVD作成 中学校、塾訪問の充実 学校説明会の充実 など</p> <p>・志願者数 H26 選抜：前期263名・後期240名 計503名 H27 選抜：前期311名・後期293名 計604名 .....(○)</p> <p>・泉大津市近隣中高連絡協議会を年間3回開催するとともに、実務者会議も設置し、年間通して計画的に活動し実績を残した。 授業交流 6月、10月、11月実施 中学への授業見学(のべ40名) 高校への授業見学(のべ30名) 出前授業(2講座実施).....(○)</p>